



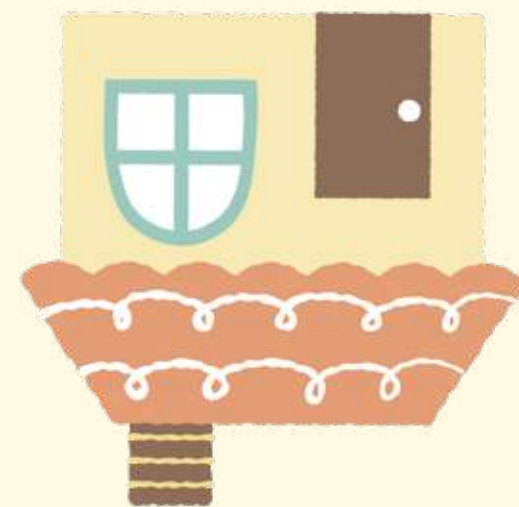
おんがくたい ブレーメンの



4ひきは そのいえで
なかよく くらしました
ブレーメンの まちには
いかなかったけれどしあわせでした



4ひきは ちからを あわせて
おおきな こえを だしました
「フンフン！ニヤー！コケコッコー！」
どろぼうたちは びっくりして
にげていきました



よるになって、もりの なかに
あかりが みえました
ちかつくとそこは だろぼうたちの
いえでした

むかしむかし ろばが いました
まいにち いっしょうけんめい
はたらいて つかれていました
「もっと たのしいことがしたいな」
ろば は おもいきって たび に でした

あるいていると
いぬに であいました
「いっしょに ブレーメンという まちで
おんがくたいをつくろう」
とろば が いいました

みちで ねこにも であいました
「ぼくたちと いっしょに おいで」
とさそって
ねこも なかまに なりました

おんどりも なかまに なって
4ひき そろいました
「みんなで ブレーメンの まちへ
いこう！」





うさぎしかめ



かめさんがゴール！
かめさんの かちでした
「ゆっくりでも あきらめないことが
たいせつだね」



うさぎさんがめをさますと
かめさんがもうゴールの ちかきに！
「あれれ、たいへん！」



かめさんは やすまずに
コツコツ コツコツ
あるきつづけました
「がんばるぞ」

うさぎさん が じまんして
かめさん に いいました
「ぼくは あしが はやいんだ
だれにも まけないよ！」

かめさんが いいました
「じゃあ かけっこで しょうぶ
しましょう」
「いいよ、かんたんさ」
と うさぎさん は いいました

よーい、ドン！
うさぎさん は ぴょんぴょん
はやく すすみす
かめさん は のろのろ あるきます

「かめさんは おそいから
ちょっと ねむっても
だいじょうぶ」
うさぎさんは き の した で
グーグー ねむって しまいました





みにくいアヒルの子



「きみもは<ちよう だつたんだね!」
なかまたちが おかえて<れました
もう「みに<い」なんて いわれません
ひな は なかまたち と
ずっと しあわせに <らしました



みず に うつた じぶん を みて
ひな は び<り!
じぶん も しる<て う<しい
は<ちよう に なつて いた の です



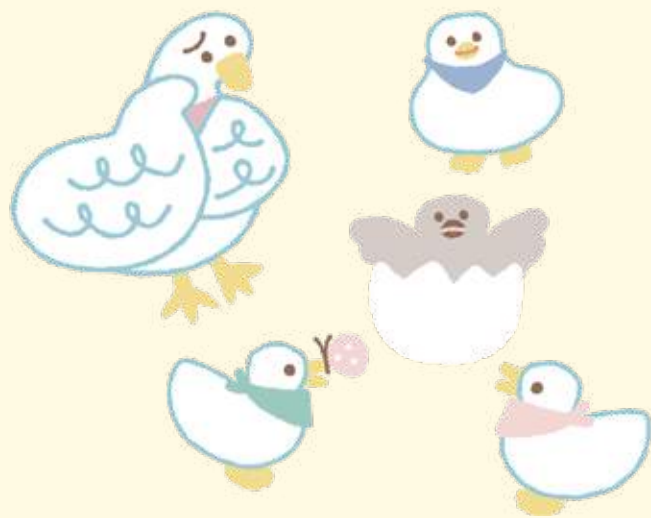
あるひ、いけで しる<て
う<しい は<ちよう たち を
みまし た
「なんて きれい なんだ ろう」

おかあさんあひるの たまご から
ひな が うまれました
でも1わだけ、おおきくて
はいいろの ひなが いました

ほかの あひるたちは
「みにくいね」と わらいました
いじめられた はいいろの ひなは
かなしく なりました

はいいろのひな は ひとりで
でていきました
「だれも ほく を すきじゃないんだ」
ひな は さびしく あるきました

まいにち さびしくて
かなしい ひが つづきました
「ぼくは どこに いけば いいのかな」





ヘンゼルとグレーテル



「もう もりのおくには いかないよ」
 できました
 ふじにおうちにかえることが
 ヘンゼルとグレーテルは
 じぶんたちの おうちが みえました
 ひしに げいて



にげました
 ふたりはおかしのいえから
 まじよが うけないあいだに
 「いっ！ あつ！」
 かまどの なかに おしこみました
 ふたりは まじよが ゆだんしたときに



ふたりは つかまわりました
 わるい まじよ だったのです
 おばあさん

むかしむかし もりのちかくに
 ヘンゼルと グレーテルの きょうだい が
 すんでいました
 あるひ ふたりは もりに あそびに
 でかけました
 ヘンゼル は もりで まいごに
 ならないように パンくずを みちに
 おとしてきました

もりの おくまで いくと
 みちが わからなくなっていました
 「おうちは どちらかな？」
 ヘンゼル は おとしてきた パンくずを
 さがしますが みつかりません
 パンくず はすべて ことりが
 たべてしまっていたのです

あるいていると
 おかしの いえを みつけました
 「わあ、おいしそう！」
 ふたりは おなかが すいていました

いえの なかから おばあさんが
 できました
 「おなかが すいているのね
 おかしを あげましょう」
 ふたり は おかしを もらって
 よろこびました





おおかみと 7ひきのこやぎ



こやぎたちは おかあさんと
いっしょに おうちに かえりました
「もう ドアを かってに あけないよ」



おおかみの いない あいだに
ふくろを そと あけて
こやぎたちを たすけました
「みんな ぶじで よかった!」
かえってきた おおかみは
こやぎたち が いない > かつかり



おかあさんやぎ が かえってきた
ちいさな こやぎから はなしを
ききました
「たいへん!
みんなを たすけな < ちゃ!」

おかあさんやぎ が 7ひきの こやぎに
いいました

「おかいものに いってきます
おおかみが きても ドアを あけては
いけませんよ」

そのようす を おおかみが
まど から みていました

まもなく、コンコンコン
「おかあさんだよ、あけておくれ」
おおかみ の こえは ガラガラでした
「おかあさんの こえじゃない!」
こやぎたちは あけませんでした



おおかみ は こえを かえて
あしに こなを つけて しろくしました
もういちど コンコンコン
こんどは こやぎたちは だまされて
ドアを あけて しまいました



おおかみは 6ひきの こやぎを
つかまえて つれていって
しまいました
いちばん ちいさな こやぎだけが
とけいの なかに かくれて
たすかりました





オズの まほうつかい



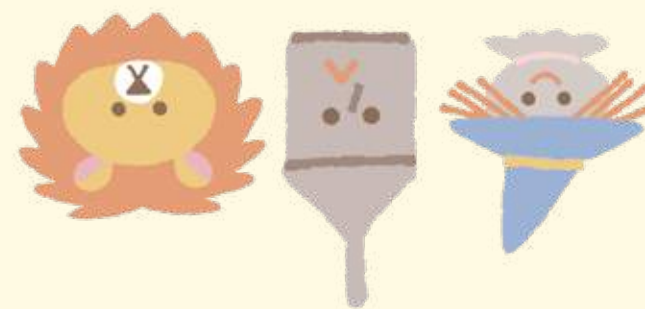
ドロシーは ぎんのくつ に おうちに
かえれる まほう を かけてもらいました
ぎんのくつ を はいて じめんを
コツコツたたくと
ぶじに おうち に かえることが
できました
「やっばい おうちが いちばん！」

ドロシーという おんなのこが
たつまきで ふしぎなく に
とばされてきました

「ここは どこ？
おうち に かえらなくちゃ」



たびの とちゅうで
かかし、ブリキの きこり、ライオン
に であいました
かかしは「ちえがほしい」
ブリキのきこりは「こころがほしい」
ライオンは「ゆうきがほしい」
みんな ねがいごと が ありました



オズさまはいいました
「きみたちは もう ねがったもの を
もっているよ」
じつは ねがいを かなえるための
たびのなかで
かかしは かしいちえ を
きこりは やさしいこころ を
ライオンは たのもしいうきを
すでにもっていることが
わかったのです

「エメラルドの みやこに すむ
オズの まほうつかいなら
ねがいを かなえてくれるよ」
みんなで オズ の まほうつかい に
あい に いくことにしました



「にし の わるい まじよ を
やっつけたら ねがいを かなえよう」
と オズは いいました
かかし が ちえを しほり
ブリキのきこり が てだすけて
ライオン が ゆうきを だして
みんなで ちからを あわせて
まじよを たおしました

みどりに かがやく エメラルドの
みやこに つきました
「オズさま、おねがいします！」

